

政策 2 - (2) -

1. 政策及び目標等

政策	専門性の高い調査研究の実施
達成すべき目標	金融行政の専門性向上のための情報収集・分析を行い庁内へ提供すること
目標設定の考え方及びその根拠	金融情勢の変化に的確に対応しつつ、適切な行政運営を確保していくため、金融環境に対応した様々なテーマについて調査研究を実施し、その成果の還元や庁内関係部局・外部有識者等との情報交流により、職員の専門性・先見性の向上を図っていく。
測定指標	金融行政の専門性向上のための情報収集・分析等の状況

2. 17年度重点施策等

17年度重点施策	金融環境の変化に応じた調査研究の実施 庁内へのフィードバックの充実
参考指標	研究成果の公表状況（公表論文等の本数・分野） 庁内へのフィードバック状況（研究会、ワークショップ、勉強会の開催数）

3. 政策の内容

金融をとりまく環境は情報通信技術の発展等により、更に高度化、複雑化、国際化等が進展してきています。

このような金融情勢の変化に的確に対応し、立ち遅れることなく適切な行政運営を確保していくため、専門性の高い調査研究を行うとともに、庁内へのフィードバックを一層充実させることとしました。

4. 平成 17 事務年度における事務運営についての評価

(1) 金融環境の変化に応じた調査研究の実施状況

17 事務年度は、研究成果として、合計 10 本の研究論文を取りまとめました。これらの論文は、電子金融取引、欧州各国等金融制度、信用リスク管理の計測や信用リスクモデル評価方法、金融 ADR 制度、金融取引の守秘義務、カストディ業務と多岐にわたっており、本数・分野の多様性ともに充実しています。10 本のうち、5 本については、金融研究研修センターの論文集（年報）「FSA リサーチ・レビュー」として取りまとめ、他の 5 本については、ディスカッション・ペーパーとして、それぞれ全文または概要の英訳とあわせて金融庁ホームページに全文を公開するとと

もに、印刷物を研究機関、主要大学図書館、民間シンクタンク等約 500 箇所配布しました。

これにより、金融環境に応じた、学術的にも行政上も意義のある有益な研究を実施できたと考えられ、対外的にも幅広く周知し議論を喚起することができたと考えています。また、論文の英訳をホームページに掲載したことにより、海外の研究者等への情報発信もできたと考えています。

(2) 庁内へのフィードバックの状況

研究会等の開催

ア．ワークショップ

研究論文の公表に先立って開催した「金融研究研修センター・ワークショップ」では、庁内一般職員に対して研究内容をわかりやすく説明しながら議論を行ったことから、研究成果に対する庁内職員の理解が促進されたと考えています。

イ．研究会

研究官の研究活動の一環として開催した「EU 投資サービス指令後の欧州各国等金融制度比較研究会」、「企業会計と税制等の将来像に関する研究会」は、合計 11 回に上りました。これらの研究会には、庁内職員も参加できるため、学界・実務界の最新情報に接し、議論に参加できる身近な機会として有益であったと考えています。

また、海外からも講師を招聘したことにより、海外の有識者との情報交流も図られました。

ウ．フォーラム

大学、シンクタンク等より有識者を招いて、情報セキュリティ対策について講演、議論していただく、「金融研究研修センター・フォーラム『金融機関と情報セキュリティ』」を開催しました。本件は情報セキュリティ対策に関する今後の方向性についての示唆を得るための格好の機会となったほか、一般にも公開することで、一般の方々の認識向上や議論の喚起にもつながったと考えています。

エ．国際コンファレンス

慶応義塾大学 21 世紀 COE プログラムとの共催により、国内外から多数の有識者を招いてコンファレンス「アジア各国の金融利用者保護を支える法と経済」を開催しました。コンファレンスで得た情報や議論は今後の金融行政を考える上での参考となることが期待できるほか、他の研究機関との交流や、金融研究研修センターの情報発信機能強化にもつながったと考えています。

昼休み勉強会の開催

昼休み勉強会については、合計 13 回開催し、外部講師から最先端の理論や実

務経験を踏まえた講話を聞き議論することを通じて、庁内職員の視野を広げ幅広い分野の知識を身近な場所で得られる格好の機会となっていると考えています。

庁内各局からの随時の要請に応じた調査・報告等を行うことにより、専門的知識・技術を提供し、行政実務に直接役立てられました。

以上から、研究成果の関係部局へのフィードバックの面では、十分な成果があがったと考えています。研究会、勉強会等では、職員の専門性・先見性向上の機会が提供され、また関係部局との相互交流も促進されたと考えています。

5. 今後の課題

職員の専門性・先見性向上を図っていくためには、研究成果の庁内へのフィードバック・関係部局との相互交流は引き続き重要であり、より一層充実させていくことが必要であると考えています。

また、今後、いままで以上に研究の質を高め、研究内容も金融環境の変化に対応したものを実施していくためには、外部との情報交流をより充実させていくことが重要です。

以上を踏まえ、19年度において、金融研究会関係経費、研究論文執筆関係経費等の予算要求を行う必要があります。

加えて、引き続き、学識経験者（大学教授）であるセンター長の指導のもと、研究活動の更なる向上、国内外の学識者との交流の進展を図っていく必要があります。

6. 当該政策に係る端的な結論

政策の達成に向けて成果が上がっているが、環境の変化や取組みの有効性等を踏まえ、取組みの充実・改善や新たな施策の検討等を行う必要があります。